

熊本市住宅審議会 「まちづくり」支援部会 議事録

| | |
|--|--|
| 日時： 平成 25 年 10 月 22 日(火)10：00～12：00 | |
| 場所： 熊本市役所 9 階会議室 | |
| 出席者：本間委員(部会長)、宮原委員、有江委員、平塚委員、松岡委員 | |
| 次第：1 開会 | |
| 2 報告 | |
| 第 1 回熊本市住宅審議会の概要について | |
| 3 議事① | |
| 今年度の作業工程について | |
| 4 議事② | |
| 熊本市住生活基本計画（仮称）における住宅政策の課題や基本方針などについて | |
| 5 その他 | |
| 6 閉会 | |
| 質疑： | |
| 議事① 今年度の作業工程について | |
| 部会長 | 5 章と 6 章は骨子に含まれるのか。 |
| 事務局 | 含まれない。序章、第 1 章～第 4 章の部分が骨子に含まれる。 |
| 議事② 熊本市住生活基本計画（仮称）における住宅政策の課題や基本方針などについて | |
| 部会長 | 中高年の減少は、言葉としておかしい。若年層の減少である。課題の 3 つ目は、長期的な目線が必要。 |
| 委員 | この部会での「まち」の考え方は、ハードの中にソフトの考え方も入ってくるのか。まちの魅力発信や、コミュニティなどを考えるとソフトとしての考え方も大事になってくる。まちづくり支援とはどこまで入ってくるのか。 |
| 事務局 | 資料 6 について、ハード的な考え方でいくと目標の 1、2、3 がある。ソフト的な面から考えると目標 4 の⑧がある。これまでの取組みでいう情報発信は、まちづくりコンサルタントの派遣の中で考えられる。 |
| 委員 | まちづくりコンサルタントとはどのようなことをする人なのか。 |
| 事務局 | 都市政策課でまちづくりコンサルタントを派遣しており、地区計画など都市計画的な手法を使ってどのようなことができるかのアドバイスをを行う。 |
| 委員 | 地域の人に集まってもらって、どのようなまちにしていくか議論していくという趣旨のコンサルタント派遣ではない。 |
| 事務局 | 現在は、既存の取組みを掲載している。今後、各区役所で作成されているまちづくりビジョンで位置づけられている取組みも盛り込んでいければと考えている。まだ、庁内の中でも連携がとれていない部分もある。 |
| 委員 | 連携の中に、まちづくり計画や自治条例の関わりも入れておく必要がある。情報発信するだけでは、意味がないので役割分担も確認しながら課題を考えていくべき。 |
| 部会長 | まちづくりの中には、ハードの部分もソフトの部分もある。都市マスなどの上位計画は、熊本市の構造を大きく見て計画を策定する。一方で、今回策定する住生活は住民の目線で計画を策定しなければいけない部分もあるが、市全体を見て計画を策定することも必 |

| | |
|-----|---|
| | 要。住生活を策定する中で、ソフトからの面を盛り込むことで他の計画にも影響を与えることができる。あまり制限せずに、踏み込んでいいと考える。 |
| 委員 | 集落内開発に疑問を感じる。市街化調整区域の開発に力を入れるのか。コンパクトシティというまちなかに人を集めることと逆の考え方ではないか。コミュニティの弱体化が進んでいるため活性化を図ることも大事。ソフトの取組として入れてほしい。 |
| 部会長 | 集落内開発だけがあげられていると集落内開発のみを進めて行くようなイメージを受ける。集落内開発も含めた地域コミュニティの活性化も考える必要がある。 集落内開発に関していえば、既存住宅地で市街化調整区域にある部分にそのまま規制をかけると厳しい条件になるので、住環境の整備としては住んでいる人に限り開発にあたる行為をしてよいとする、緩和措置的な考え方だと思っている。市街化調整区域を拠点に広げていくという考え方ではない。既存集落も大切にしていこうという考え方で、書き方を工夫して欲しい。 |
| 委員 | コンパクトシティに関して、拠点に集約するという部分と地域に分散させるという部分に矛盾を感じるが、どう考えているのか。 |
| 委員 | 中心拠点・地域拠点それぞれの役割がある。地域拠点は買い物など普段使うものが集積している拠点である。地域によって課題も異なる。それぞれを活かす方法や役割を持っていれば、つながることで“まち”として魅力が出る。人口の減少も細かく見ていくと、課題をもう少し見えてくる。 |
| 部会長 | コンパクトシティは欧米の考え方。歩いて過ごせるまちを目指すものだが、都市規模によって手法が変わる。欧米は、10万人以下の都市で、ゾーニングが上手くいっているために上手くいきやすい。日本は、スプロールしているために集めにくい。商業ベースと住宅ベースを分けて考えるべきではないか。15の拠点は、そこに住んで生活が上手くいくというレベルで、中心拠点は大きなイベントや買い物をする場という考え方。それらを連結し、地域拠点に住宅を集約し、交通網の整備を要望することはできる。拠点ごとに性質が違う。地形も公共交通も違うため、拠点ごとに住みやすい環境をつくり、住宅を考えるなど、拠点ごとの配慮が必要。 |
| 事務局 | 目標1は、地域の特性に合わせて取組みを分けた方がよろしいか。 |
| 委員 | 現状と課題も分けて欲しい。公共交通の考え方も参考に入れて欲しい。 |
| 部会長 | 中心拠点と地域拠点の両方に集約させるのは矛盾ではないか。 |
| 委員 | 人口が将来的に減ることを考えると拠点だけ沢山形成しても意味がないのでは。どちらに重点を置くのか。 |
| 事務局 | 熊本市が目指す多核連携都市構造は、中心を核として、地域拠点は圏域の日常生活を担うものになる。中心市街地と地域の核を公共交通で結び、公共交通で来てもらうという仕組み。 |
| 部会長 | 住宅政策だけではうまくいかないため、都市計画マスタープランなどと併せて考える必要がある。話題を変えて、防災に関して意見はあるか。 |
| 委員 | 密集市街地は、狭い道路の昔からある集落だが、高齢者も多いため、助成がないと解消は進まない。 |
| 事務局 | 熊本市では、法に定める重点密集市街地は解消されている。行政により解消したところと建て替えなどで自然と解消したところがある。熊本市内の場合、古い建物・狭い道 |

| | |
|-----|---|
| | 路のところもある。建物火災が起きた際に、周りに広がらないということが基本的な考え方。建物1つ1つが強化され、建て替え等で道路も広がる。また、消火栓整備も行い防災機能が向上している。そのため、ある一面を行政で手を加えることは現在ない。 |
| 事務局 | 狭隘道路の助成事業の事例も調べたが、狭い路地でも、防火性能を挙げればそのままでもいいのではないかと考えている。 |
| 委員 | 行政としての支援、お金だけではない支援をする必要があるのではないかと。推進や促進支援の仕組みづくりを入れる必要がある。 |
| 委員 | 支援の仕組みはあるが、知られていないので情報発信が必要。防災マップはあるが、防災を考えると空き家が問題である。昨年の阿蘇の水害が発生したときには、仮設の木造住宅をたてた。空き家を活用した災害住宅も考えられる。 |
| 委員 | 災害時の住宅の緊急確保は行っている。住宅用火災警報器も7割しか付いていない。制度が始まりだした際は、情報発信も上手くいくが、期間が終わると情報発信もしなくなる。防災という面では、常に情報を発信していく必要がある。 |
| 部会長 | 魅力だけでなく、住環境整備のための情報発信も行う必要がある。項目としては、住環境の中に情報発信を入れたほうがいい。集会所にするなどの空き家活用を施策の中に入れるべきである。 |
| 委員 | 課題の分け方はこれでいいのか。また、「まちを創造する」とはどういうことか。新たにつくるのか、今あるものを整理するというのか。低炭素をどこに入れるか整理する必要がある。若年層は、全体的には減少しているが、地域によって違うのではないかと細かく見る必要がある。 |
| 委員 | 人口は、増えたり減ったり動きがある。全体の減少（傾向）だけで対策をとれるのか。 |
| 事務局 | 熊本市の中では、東区が増加、西区と南区は少なくなっている。まちづくりに合わせてフィードバックしたい。しかし、全体の大きな方向性をみるには、全体の人口が減っていることを言ってもいいのではないかと。 |
| 委員 | 課題と方針と目標のつながりがある程度整理されると、つながりが見える。 |
| 部会長 | 課題も長期スパンでやるものも、地道に取り組む施策もある。課題全体を基本方針で対応する考え方がいい。 |
| 委員 | 熊本市内の移動もある。安価な住宅を考えることで郡部への流出も防げる。大事なのは、地域にもともといた方と入ってきた方とのコミュニティである。 |
| 部会長 | 若年層の減少は状況であって課題ではない。コミュニティや高齢者の暮らしなどが弱くなるのが課題。 |
| 委員 | 熊本らしさ「水」「緑」「歴史」が出ていない。 |
| 部会長 | 現状では、熊本らしさがアピールされてない |
| 委員 | 水など、熊本らしさが発信されていることが大事。 |
| 部会長 | 自分たちも気づいていない。情報発信が足りていないことも課題。 |
| 部会長 | 基本方針について、もう少しまとめたと思う。先ほど、地域の部分でコミュニティの考え方が必要と話があった。また、居住促進はもう少し地域ごとに細かく見ていいのではないかと話だった。魅力では、熊本らしさの情報発信をもう少し充実させる話だった。他に意見はあるか。 |
| 委員 | 集落と聞くと田舎のイメージがあるので、特に集落内開発という言葉を使いやすくす |

| | |
|-----|---|
| | る。分かっているから使っているが、分からない人は偏見的に感じるかもしれない。 |
| 部会長 | 防犯対策などの安全対策に触れられていない。盛り込めないか。 |
| 事務局 | 防犯という視点からすると、夜警などの取り組みなどの地域自治会の役割はある。 |
| 委員 | 高齢者や子ども、障がい者など、誰もが安全という視点がない。 |
| 部会長 | バリアフリーなども地域全体で取り組むという考え方はあってもいい。 |
| 委員 | 観光資源を活用しながら、安全なまちを目指して、まちの価値を上げていくことも大事。 |
| 部会長 | 歩けるコンパクトシティを考えると安全に歩ける住宅地や環境整備などを盛り込めば、他の施策にも反映される。 |
| 委員 | 定住促進とは長く住み続けるという意味なのか、外から人を呼びたいという意味なのか。 |
| 事務局 | 施策⑦は移住者に、施策⑧は住んでいる人に、施策⑨は事業者向けの施策である。定住は受け取り方で違う。表現をどうするか考える。 |
| 委員 | 情報発信はどのように行うのか。 |
| 事務局 | 既存のホームページや、市政だよりを使用する。東京の事務所なども活用していくことも考えられる。硬い表現が続いているので、他部会との整合も考えて整理する。 |
| 部会長 | 熊本型コンパクトシティという言葉は使われているのか。 |
| 事務局 | 都市マスでは、多核連携型都市構造と言っている。市長は、熊本型コンパクトシティを使用している。現在、2通りの言い方をしている。 |
| 部会長 | 他の計画と連携が取れるように言葉の使い方を注意する。 |
| 委員 | 目指す姿はわかりやすくすべき。 |
| 委員 | 「まちの向上」など言葉が分かりにくい。 |
| 部会長 | 住環境が向上することの方がただしいのではないか。 |
| 委員 | それぞれの役割を書くところもあるのか。 |
| 事務局 | 推進体制に入る。 |
| 部会長 | 施策は、行政中心だと思うが、市民参加のものが見えない。特に住環境には、市民協働が必要。 |
| 委員 | 自分たちの市は自分たちの市という条例も出来てきている。まちづくりを市民が担うことは多く出てくるから入れるべき。 |
| 部会長 | 市民や団体との連携もまちづくり部会でできていいと思う。 |
| 委員 | 将来的な連携も盛り込んでいきたい。 |
| 部会長 | 施策については、2回目の専門部会で検討する。 |
| 事務局 | 基本方針、目指す姿は頂いたご意見をもとに事務局で整理する。 |

以上